

こう む げといせ べつ ほ まん しょ ぶん しゅぎ きゃ まん
 ポリムの日雇差別・保安処分主義を糾弾しよう
 とう ぎょうせい じんせいぎょうせい あま せきにん つい きやう
 労働行政民生行政にアヌ・青カンの責任を追求しよう



ゆく仲間たち、

四天王寺青カン仲間が、高校生に「エアナン」(サバイバルゲーム、戦争ゴッコ)を襲われ三名が負傷したが、根性で、「投石」を反撃しておいかえし、「一〇番」した、仲間の言い分を、伝えよう。

① ポリさんに「なんぞあめ子らは、私タチをぬらうんぞしよう」と聞いたら「犬や鳥を打つより人間を打つ方がオモシロイんやろ」
 いうからアタマにきて、「ポリさん、あんたも、人間をうつ方がオモシロイからセストルをもってゐるんぞすか」といつてやった。
 ② うたれた仲間が、病院で手当してもらつて「事情聴取」をうけた後、「この人の、この後の治療を警察でなんとかしてもらえらんぞすか、」とタノムと、「犯人をつかまえて金を取らないとなんともならん。診断書も目前につくれ。」
 「こんな「ドイ」こと、なんとなららんぞすか、」

③ 「その一週間前に二十人位の子供らが投石してきた。なぜあの時に、つかまえてくれなかつたんか。今に帰ってポリさんが、見張やバトロールをしているけど、結局、青カンでさんようになるのと干やいますの」

④ 「あのマスコミはなんぞすか、皆なが寝てる所をいきなり、撮つて、ことわりもなしに」「あしは、口ではもう死んだんだらうと、いうことになつてゐるんぞすか、」

仲間たち、コレは、きりした。今朝もポリが、青カン仲間を「シノギを見た」ら、殺してくれよ、からだは大丈夫か、など、と急に猫なげまをかけた回っていた。日頃は、青カンを排除し、シノギを横行させるときなら、こんな米山の一角の事件がマスコミでサウなるとカソコをつける。反撃は、強く、共々にバンパロー

釜ヶ崎解放

釜ヶ崎日雇労働組合

1986年10月16日 632-4273